

(B) 水産機械の技術指導関係

(イ) 電気機器取扱講習会

場所	日時	講習項目	講師	出席人員	備考
指宿漁協	自 昭31.2.28 至 昭31.2.29	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電気の原理 ○ 機械取扱注意 ○ 故障診断 ○ 質疑応答 	日本無線KK 二級無線士 長谷川藩尊	29名	臨時講習会実施 才要望が多い

(ロ) 漁船発動機関係取扱講習会

場所	日時	講習項目	講師	出席人員	備考
喜入漁協	自 3/3 至 3/3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発動機関の原理 ○ 機関取扱注意 ○ 故障診断 ○ 質疑応答 	鹿児島大学水産学部 かごしま丸機関長 北村千里	19名	全上

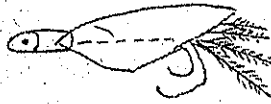
メジカつり漁業試験

(趣旨)

新規事業として種子島近海で試験操業を行った。この地方の漁民は、トビ延縄、キビ刺縄、サバー本釣、瀬魚漁業と共に各時期順次切替えて操業するが、漁法が未だ曳縄程度のもので、果外船に比較して相当立ちおくられている。今年に入り果外船同様ホロ板、撒餌にて釣獲しようとする気運が高まっている。当场沿岸漁業部として初めての試みであったので効果は場らなかつたが、試験結果は次のとおりである。

- (1) 期 日 昭和31年1月27日～2月9日
- (2) 使用船 試験船 おほとり 19.75ton, 50HP
- (3) 従事者 調査員 肥後、船員 7名
- (4) 餌 料 キビナゴ 5箱
- (5) 使用漁具
- 釣 竿 : コサン竹 長さ1.5k~2k 元口3~4寸 末口4~5分
- 釣 糸 : ナイロン7厘 釣針までの長さは釣竿より稍短いもの
- 釣 針 : 擬餌針 (別図の通り)
- ホロ板 : 材 料 桐 材
- 型 別図の通り
- (6) 漁獲量 めじか 97×900枚

釣針

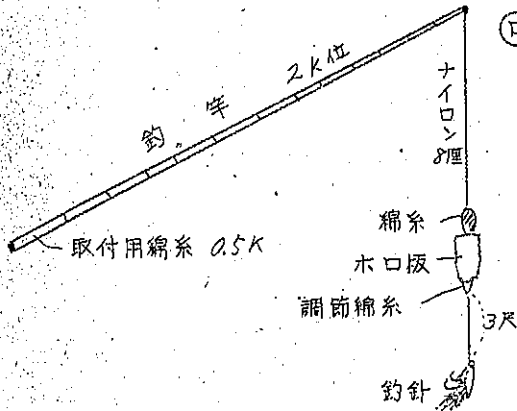
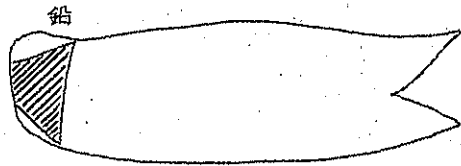


木口板

イ



ロ



1. 種子島近海に於ける一般就業船

操業船の大部分は、宮崎県であり、地元船は未だ出漁していない。東海岸では、2月/日現在2/隻、熊本北部及び馬毛島では7隻を数えている。

噸数別に見れば4~10噸級が主で、14~16噸級は4~5隻程度のものである。

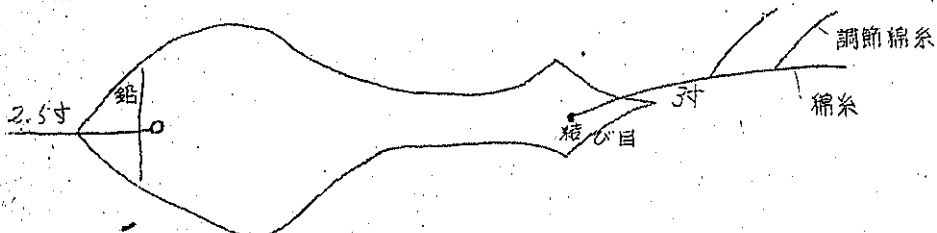
2. 漁場

漁場は別図に示す如くであるが、着船の話では、2~3哩程度の所で行い、カツオ釣と兼業しているため2~4月は種子島近海、4~5月は、宮崎、高知と漁場を変更する。

3. 漁具、漁法について

釣針については、二本爪に「カエリ」がついていれば魚を逃がす率は少ないが、漁獲して魚をはすすのに手間どり、魚が活潑にあれば相当支障を来す。

木口板の作動状態が、この漁業の中心をなすものであるが、振れ具合を加減するため、木口板の後に綿糸を加える事々、その泳ぐ方向を決定する。後の結び目などの結果を図示すれば次の様になる。



取り付け用の綿糸は前を2.5寸、後を3寸にし、後の綿糸に取り付ける調節綿糸は、ホ口板が後部の軽い程長く2.3本付けなくてはならない。

結び目は、ホ口板の泳ぐ方向を決定する舵になるもので、結び目は、丸く常に保たなければならず、之が三角を、左右に大きくなると作動状態が変り全く漁はない。

餌料については、操業線は、全部"しらす"の楕蔵物を使用するが、今回は、"キビナゴ"を使用した。7.8隻で操業する場合は、"しらす"、"キビナゴ"でも良いが、操業船が多くなると"しらす"の方が良いようである。

船の旋回方法は、撒餌の程度により、10間位を直径として旋回した方が良いようである。

次に船の旋回と漁獲を示せば、30分間の結果次の通りであつた。

	釣竿の位置	最初の5分	次の5分	10分	10分	計
小さく旋回した時 (直径10K以下)	径の内	5尾	3尾	3尾	4尾	15尾
	〃中	4	7	7	6	24
	〃外	2	10	10	12	34
大きく旋回した時 (直径10K以上)	径の内	6	4	4	5	19
	〃中	4	8	9	12	33
	〃外	4	13	12	14	43

4. 斯業今後の見通しと対策

業者より色々意見を聴聞した結果、めちか釣漁業の時期は、2月～4月まで、最盛期は、2月下旬～3月中旬で、今年は洄游があそいが、群が大きいので、今後は相当漁獲があるだろうと期待している。

5. 斯業に対する地元の見解

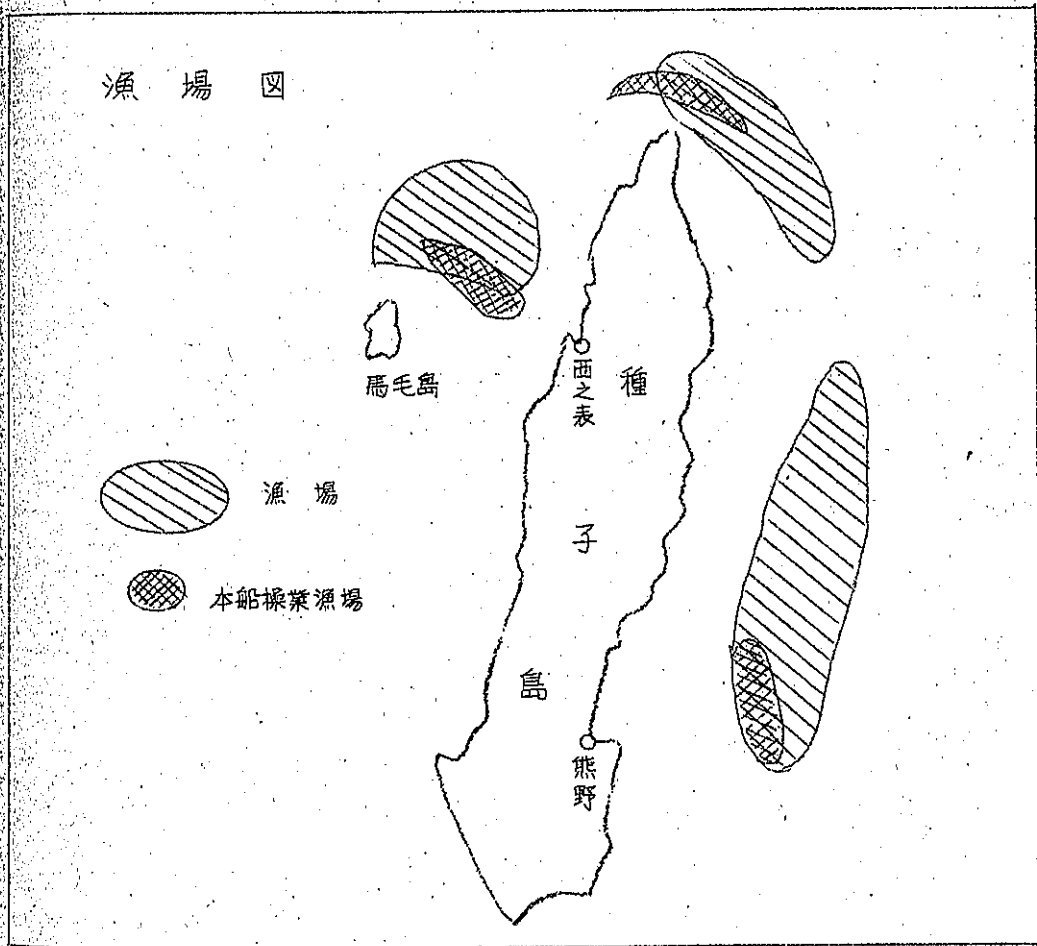
好漁場を眼前に控えている地元漁民は、当漁業に対して今年になって関心を持つている。従来の鳧縄より県外船同様の漁具に切替えようとしている。特に西之表漁協では、高知県に出向き技術修得をなして来ている業者もある。熊野漁協では、地元船が2～4屯級の小型船のため、日帰り程で、県外船の技術を学ぶため宮崎県大堂津の漁船に漁民が4～5名乗組んでいる。

以上のように先ず地元民の熱意が高まりつゝあり意気ぞんでいいる。

6. 経過

月日	天候	気圧	風向、力	水温	潮流	うねり	波浪	漁獲量	漁場
1.27	0	1004	N 4						
28	bc	995	W 7						
29	bc	1002	NW 7						

30	0	994	W 6	19.1	N	4	4		
31	0	1002	W 4	19.1	N	4	3		
2.	1	bc	1004	N 4	19.1	NE	3	3	
	2	0	1004	N 4	19.0	NE	3	3	(13×340) 179尾 馬毛島近海
	3	bc	1002	NE 4	19.1	N	3	3	84*560* "



海洋調査

〔趣旨〕 旧北薩水指、南薩水指より継続されたもので、対馬暖流開発の一事業として海洋調査を行った。

調査船 ちどり丸 19.57 ton, 50HP
観測点 野馬岬 120哩、10点